

1 産業連関表の概要

産業連関表とは、一定地域（通常国又は県という行政区域）の一定期間（通常1年間）における財・サービスの産業間の取引を一つの行列（マトリックス）に示した統計表である。

産業連関表は、表作成年次の産業構造を読み取ることができるだけでなく、表を加工し条件設定することによって、各種の経済分析や経済予測が可能となる。

(1) 産業連関表の構造

産業連関表は、各産業部門において1年間（暦年）に行われたすべての財・サービスの生産及び販売を記録したものであり、県民経済計算では産業計として一括して計上されている中間生産物についても、各部門別にその取引を詳細に記録している。

産業連関表を、縦の列方向に見ると、ある部門がその財・サービスを生産するために原材料その他をどの部門からどれだけ仕入れてきたかという費用構成（投入）が示されている。また、横の行方向に見ると、各部門で生産された財・サービスがどの部門・最終消費者に販売されていったかという販路構成（産出）が示されている。そのため産業連関表は、別名「投入産出表」（Input-Output Table、略してI-O表）とも言われている。

(2) 産業連関表の見方

表1は令和2年富山県産業連関表を簡略化したものである。

表1を縦方向にみると、第1次産業の県内生産額は870億円で、その生産のために第1次産業から102億円、第2次産業から148億円、第3次産業から175億円の原材料やサービスを購入し、445億円の粗付加価値（雇用者所得や営業余剰など）を生み出したことを示している。

一方、横方向にみると、第1次産業は中間需要部門の第1次産業へ102億円、第2次産業へ423億円、第3次産業へ69億円を原材料などのいわゆる中間財として販売し、最終需要部門の家計や県外などへは720億円販売したことを示している。

中間需要と最終需要をあわせた1,314億円から移輸入額444億円を差し引いた870億円は県内生産額になる。

令和2年富山県産業連関表

表1 生産者価格評価表（第1次産業、第2次産業、第3次産業の3部門表）

（単位：億円）

		中間需要			中間需要計	最終需要計	需要計	(控除) 移輸入	県内生産額
		1次	2次	3次					
中間投入	1次	102	423	69	594	720	1,314	-444	870
	2次	148	14,928	4,204	19,280	42,175	61,456	-21,211	40,245
	3次	175	7,743	13,154	21,072	39,708	60,780	-12,438	48,342
中間投入計		425	23,094	17,427	40,946	82,603	123,549	-34,093	89,456
粗付加価値		445	17,151	30,914	48,510				
県内生産額		870	40,245	48,342	89,456				

(3) 産業連関表の利用方法

代表的な利用方法としては以下のものがある。

① 表作成年次の経済構造を把握できる。

ア 経済全体の規模、産業構造

イ 各部門の生産額

ウ 各部門の費用構成（縦方向にみる）

エ 各部門の販路構成（横方向にみる）

② 逆行列係数表などを用い、条件設定することにより、新たな投資、消費が行われた場合の地域産業全体への経済波及効果の分析などができる。